

8.

文献収集と公開・史料 電子化・ウェブ発信

- 1) 文献・資料の収集と公開
- 2) IGS 史料電子化プロジェクト
- 3) ウェブサイトでの情報発信

1) 文献・資料の収集と公開

ジェンダー研究の知の基盤の一層の充実を図る

ジェンダー研究所は、1975 年創立の「女性文化資料館」時代から今日に至るまで 40 年以上にわたり、女性学・ジェンダー研究の文献・資料の収集を絶え間なく続けてきた。女性に関する膨大な知の集積ともいえる蔵書は、お茶の水女子大学附属図書館の専門コーナーに配架され、学内外から OPAC（Online Public Access Catalog）で検索でき、手続きを経れば学外の者も利用可能である。

2021 年度も、寄贈・購入の多数の文献・資料を収集することができた。また、専門コーナーの書架から見つかった OPAC 未登録の希少資料について、雑誌登録を進めた。（新規収蔵図書・資料の詳細は本報告書巻末資料 142 頁参照）。

一方で、増加する文献・資料の配架場所確保と研究資料としての有効活用のため、重複して所蔵している書籍の一部を除却し、希望する外部機関および学内研究者・大学院生に提供した。

■附属図書館専用書架での蔵書貸出・閲覧

ジェンダー研究所収蔵文献（書籍約 25,000 冊、雑誌約 340 種）は、お茶の水女子大学附属図書館の専門コーナーに配架され、学内外の学生や研究者に利用されている。

《図書館利用案内》

○開館日

- ・月～金 8:45～21:00 （授業のない日は 17:00 まで）
- ・土 9:00～17:00 （夏・冬・春期休業期間中は閉館）
- ・日 12:00～17:00

○閉館日

- ・日曜日、国民の祝日、年末年始、大学夏季一斉休業日
- ・夏・冬・春期休業期間中の土曜日
- ・蔵書点検
- ・徽音祭当日、創立記念日、入学試験日当日、卒業式

※新型コロナウイルス感染拡大防止の対応のため、一部利用に制限あり。最新情報は附属図書館ウェブサイト（<https://www.lib.ocha.ac.jp/>）を参照。



■蔵書・研究者に関する情報提供

附属図書館収蔵文献・資料のほかに、ジェンダー研究所内にて、購入雑誌・寄贈雑誌の最新号、研究所の過去の成果刊行物、事業の記録、所属研究者執筆の書籍のほか、全国のジェンダー研究施設や男女共同参画団体の定期刊行物を閲覧することができる。

資料閲覧対応のほか、研究者及びジェンダーに関心を持つ方々に、これらの文献や資料、研究所に蓄積された知識を広く活用してもらうため、メールや電話による外部からの問い合わせ、訪問依頼にも随時対応している。

■お茶の水女子大学デジタルアーカイブズでの資料公開

<http://archives.cf.ocha.ac.jp/>

お茶の水女子大学デジタルアーカイブズでは、本学を卒業し、女性の先駆的研究者として活躍した保井コノ、黒田チカ、湯浅年子、辻村みちよの研究業績をまとめた資料目録などが公開されている。

これらの資料は、女性文化資料館時代の1981年の文部省特定研究「女性高等教育とその成果に関する総合的研究」における2つのプロジェクト、「III 婦人研究者の活動状況に関する調査研究—自然科学分野を中心に—」「IV 女性文化に関する文献・資料の収集及び調査研究」の中で、それぞれのご遺族の協力を得て収集した遺品のうち、研究関連のものを整理し、長い時間を掛けて目録化したものである。

目録化は本研究所の前身機関のプロジェクト成果であるが、これを大学の歴史資産として広く公開するよう、2007～2009年にデジタルアーカイブズ化された。現在、資料現物は理学部内に設置された「女性科学者資料室」で保管され、本学図書・情報課 大学資料担当（shiryo@cc.ocha.ac.jp）が窓口となって資料閲覧や貸出等の依頼に応じている。



2) IGS 史料電子化プロジェクト

ジェンダー研究所は2017年度に、「IGS 史料電子化プロジェクト」を始動した。ジェンダー研究所の前身であるジェンダー研究センター（1996年設立）、女性文化研究センター（1986年設立）、女性文化資料館（1975年設立）において、所属の研究者たちが企画開催してきた研究会やセミナー、国際シンポジウム等のイベントの記録・資料を電子化し、「IGS デジタルアーカイブ」として後世に残すことで、ジェンダー研究のさらなる発展に寄与することを目的とするプロジェクトである。

5年目を迎えた2021年度は、デジタルアーカイブを実際にデータベースとして活用できるものにするために、メタデータ（電子化した個別のデータについてのデータ）の構築に着手した。今年度の当プロジェクトの成果概要は以下の通りである。

■ 電子化済イベント件数

女性文化資料館時代と女性文化研究センター時代に開催されたイベントの記録は、主にカセットテープに録音された音声である。そのほかに、写真（ネガフィルムと紙焼き）と、印刷物や手書きの資料・記録等の紙媒体の史料が残されている。2017年度以来これらアナログデータの調査を進め、バラバラに保管されていた史料を過去の彙報などを参考に整理していく作業と、それと並行して個別のアナログデータをデジタルデータへと変換する電子化作業を進めてきた。2021年12月現在の電子化済イベント件数は【表1】の通りである。

【表1】電子化済イベント件数（※1,2）

時期 (年度)	組織名	イベント 件数	電子化済イベント件数			
			ドキュメント (PDF)	画像 (JPEG)	音声 (mp3)	動画 (mp4)
1975-1985	女性文化資料館	75			54	
1986-1995	女性文化研究センター	137	1	23	85	
1996-2014	ジェンダー研究センター	211	4	91	101	37
2015-2021	ジェンダー研究所	130	130	130	100	30
合計		553	135	244	340	67

※1) 現在も調査中のため、イベント件数は今後増える見込

※2) 女性文化資料館時代と女性文化研究センター時代のイベント一覧は本報告書 143～147 頁参照

■ メタデータの構築

「IGS デジタルアーカイブ」をデータベースとして活用できるように、メタデータの構築に着手した。将来、ジェンダーの研究者がデータベースを検索する際の利便性を考慮し、電子化した個別データのメタデータのカテゴリーを以下の6カテゴリーとすると決定した（個別のメタデータ例は【表2】参照）。

・IGS デジタルアーカイブ メタデータカテゴリー

【ID】【イベントタイトル】【テーマ領域（※）】【キーワード】【登壇者氏名】【データ形式】

※【テーマ領域】については次項参照

【表 2】メタデータ例

ID	20200716
イベントタイトル	IGS オンラインセミナー〔生殖領域シリーズ〕 ケアのインフラストラクチャーとしての臨床データ報告：生殖補助技術（ART） の臨床結果登録に対するフェミニストアプローチ
テーマ領域	Health; including Mental Health, Psychology and Socialisation（※1）
キーワード	生殖補助医療、生殖補助技術、ART、臨床データ、日本、台湾、韓国、ケア、イ ンフラストラクチャー
登壇者氏名	吳嘉苓、柘植あづみ、仙波由加里
データ形式	Zoom 録画動画、登壇者作成資料パワーポイント、報告原稿の PDF、報告書（IPS シリーズ）の PDF

※1) テーマ領域については次項参照

■ テーマ領域の分類法

電子化した個別のイベントが、どのようなテーマで企画開催されたものであるのかを端的に明らかにするために、メタデータのカテゴリーのひとつとして「テーマ領域」を設定することとした。テーマ領域の分類には、The Feminist Library（※1）の Feminist Library Classification（※2）を使用する予定。The Feminist Library はジェンダー問題に特化した専門図書館であり、そこで考案された独自の分類法が Feminist Library Classification（【表 3】）で、さまざまなフェミニスト図書館で採用されている。

【表 3】Feminist Library Classification（※3）

A	General
B	History
C	Society, Customs and Beliefs
D	Education
E	Politics; including the Women's Liberation Movement
F	Health; including Mental Health, Psychology and Socialisation
G	Sexuality
H	Lifestyles
J	Work
K	Law and Rights
L	Crimes Against Women; including Violence Against Women
M	Communications and Mass Media
N	Arts; including Literary Criticism
P	Leisure; Sport; Women Travellers

※1) <http://feministlibrary.co.uk/>

※2) <http://feministlibrary.co.uk/classification-system/>

※3) 【表 3】は 2021 年 12 月現在のバージョンであり、The Feminist Library では 2022 年 3 月に Feminist Library Classification のアップデート版を公開予定である。

■ 2022 年度は電子化の作業と並行して電子化済イベントのテーマ領域を Feminist Library Classification アップデート版に基づいて順次分類していく。現在 The Feminist Library の研究員の方々とメールでの連絡を継続中であり、アップデート版 Feminist Library Classification を完成次第ご提供いただく予定である。

3) ウェブサイト等での情報発信

ウェブサイト全体の情報整理と英語発信の強化

2021 年度は、前年度末に課題を整理したウェブサイト全体の情報整理と英語発信の強化を進めた。まずは紙媒体で発行されている年次事業報告書を元に、研究プロジェクトの情報整理や、掲載漏れのあったセミナー・シンポジウムの開催報告の掲載作業を行った。さらに、日本語版にはあるが英語版にはない情報を確認し、「AIT ワークショップ」など英語発信が重要と考えられる国際交流事業のページ作成を行った。引き続き、英語発信が不足している部分の強化に努める。

刊行物をオンライン公開するページのうち、年次事業報告書のページは、各巻 1 冊分をひとつの pdf ファイルにまとめたものだけが掲載されていたが、章ごとにファイルを分割したものも加えて、閲覧したい箇所が探しやすい、ユーザーフレンドリーを意識した形態に修正した。IGS Project Series のページもレイアウトを工夫し、それぞれの報告書の関連情報であるセミナーの開催概要や実施報告が掲載されているウェブページへのリンクを貼った。IGS の実施事業は、所属研究者が進める研究プロジェクトと、国際研究ネットワークや開催イベントなどの事業が有機的に連携している。そのような関連性を相互リンクの形で明示できるのがウェブサイトでの情報発信の利点でもある。その利点を活かした情報発信になるよう、工夫を重ねる所存である。

また、これまで成果の発信が十分とはいえなかったプロジェクトのウェブページ作成も進めている。「特別招聘教授プロジェクト」については、担当イベントの案内と開催報告のウェブ掲載はされていたものの、プロジェクト総体での情報整理がされていなかった。IGS ではこれまでに 8 名の招聘実績があり、全員の研究所事業への貢献が俯瞰できる形の特設サイト（日英）の構築作業を進めている。こうした形の発信は国際的な研究教育交流の更なる活性化にもつながるだろう。

さらに、文献収集・資料整理の一環として、1975 年の創設以来の紙媒体の資料やアナログ音源などをデジタル保存する「IGS 史料電子化プロジェクト」についても、ウェブサイト上での情報発信を検討している。電子化後のデータ公開についてはすぐにできることではないが、まずはこのプロジェクトが進行中であることを発信し、それが研究所歴史資料整理作業の充実や、ひいては日本の女性学・ジェンダー研究史の研究に資するものになることを期待している。

年次事業報告書のページ



<https://www2.igs.ocha.ac.jp/publications/jigyoyu/>

IGS Project Series のページ



<https://www2.igs.ocha.ac.jp/ips/>